②分科会

新規導入　起業教育ワークショップ

「社会科学習におけるアクティブ・ラーニングを活用した起業教育
ー大学での講義における実践事例ー」

大阪商業大学　経済学部 経済学科 准教授
起業教育委員会　委員長　柴田 孝

第20回起業教育研究会　分科会

社会科学習におけるアクティブ
ラーニングを活用した起業教育
ー大学での講義における実践事例ー

大阪商業大学
経済学部　准教授　柴田　孝

アクティブラーニング

出典：中央教育審議会答申（2012）『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』p.37

- 定義
  - 教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブラーニングの方法である。

担当科目

講義系科目
- マクロ経済学入門（前期）
- ミクロ経済学入門（後期）
- 国際経済学（前期・後期）
- 貿易論（前期）
- 国際金融（前期）
- 開発経済学（前期）

演習系科目
- OBPビジネスゲーム
- ゼミナール（1年、4年）

マクロ経済学入門

- 経済学科の1年次配当科目（必修）
  - 担当クラスは2年生クラス（再履修者、他学科等の初回履修者が混在）
- 古典的なマクロ経済学（ケインズのマクロ経済学）のうち、基礎的な部分を指導
  - 経済活動の規模は需要により決まると考える。
  - 不況の影響を緩和するためには経済政策を通じて市場介入し需要を喚起する必要があると説明。

マクロ経済学入門

- 科目が求める要素
  - 数学的表現（数式表現、数式をグラフ化、グラフから経済モデルの性質を読み取る）を多用
- 科目運営上の課題
  - 数学的表現に抵抗を感じる受講生の存在
  - 講義のみ⇒理解度に格差が発生（要対策）
- アクティブラーニングの導入
  - 講義：基本事項の解説・理論の説明
  - 実習：問題演習（問題プリントの配付）

理論科目の課題

- 講義のみ＋定期試験
  - 理論を正しく理解しているか
  - 理論を表現する技法を正しく習得できているか
  - 定期試験で確認だと、手遅れの可能性
- 講義＋問題演習＋中間試験＋定期試験
  - 中間試験では、中間試験を回収後、すぐ同じ問題をノートや友人をフル活用して解かせる
  - 問題演習を繰り返し実施（自宅学習プリントの配付による自宅学習の誘導）

開発経済学

- シラバス「授業の概要」
  - 途上国の生活には、日本に生まれ育つ私たちが想像したこともないような困難があります。そうした現実を私たちが思い描く普通の生活と比較することで、私たち一人一人が、いかに社会と結び付いていることで恩恵を受けているか、そしてどれだけ助けられているかを学びます。たとえば家族の生活のために働く15歳未満の子どもは全世界で1億人以上います。しかし日本では15歳未満の子どもは義務教育（小中学校）を受けるために学校に通っています。どうして子どもが働かなければならない状態が続いているのでしょうか。また、外国から多くの援助を受けているはずの国で飢餓や貧困に苦しむ人たちがいます。それは援助が足りないからなのか、それとも他の要因があるのでしょうか。また援助は永遠に続けていくものなのでしょうか。開発経済学ではこうした問題を知り、経済学を使って考えていきます。

講義で学生に到達してほしいこと

- 授業の到達目標
  - ①各国の経済開発の現状を知ることで現実の世界の動きに関心をもつ。
  - ②経済発展への各国・世界全体での取り組みについて理解する。
  - ③経済開発上の問題について経済学をつかった考え方を理解する。
  - ④毎回の課題に取り組むことを通じて、調べてまとめる能力を養う。

開発経済学での獲得目標（裏）

- 日本社会のセーフティネットを理解する
- 普通が普通でないときに発生する困難を知る
- 「かわいそう」「自分が恵まれていると感じた」という感想にとどまらず、問題を主体的に考えることを目指す
- 具体的な事例に学ぶことで、「募金する」「政府が支援すればいいと思う」という意見以外を持てるようにする。

「大商大ビジネスアイディアコンテスト」に挑戦しよう

- テーマ
- 「発展途上国で生きる人・貧困状態にある人」を助けるビジネス
  - 上のテーマに合致するビジネスプランを考える。

10

ビジネスアイディアを考えるために

- 「問題は何か」・・・4Fで考察
  - Fu-満・Fu-足・Fu-十分・Fu-便 ⇒ 4F
    - ●「困っている人」の困っている状況
    - ●いまあるモノをもっと「良く」したい
  - どれくらい困っているか
  - それにより発生している損失はどれくらいか
- 「問題をどう解決するか」
  - 方法・しくみ
  - 実現するための方策
    - 技術、財源

11

アイディアをまとめるにあたって

出典：「大商大ビジネス・アイディアコンテスト　ビジコン応募への道　～企画書の書き方～」p.1

ポイント　考案したアイディアの「(1)誰に対して」「(2)どのような価値を」「(3)どのようにして提供するか」「(4)提供することの対価をいただけるのか」について説明します。

(1)誰に対して Who	このビジネスアイディアを利用して満足を得る顧客やターゲット層（個人、企業、自治体、NPO、男性、女性、若年者、中高齢者等）を具体的に説明しましょう。
(2)どのような価値を What・When・Where と Why	価値を言い換えると「満足」や「利益」といってもいいでしょう。個人や企業が抱えていた、悩みや課題が、あなたの考えたビジネスアイディアを利用することで解消されたとき、個人や企業が「満足」や「利益」を得ます。悩みや課題がもたらしていた不都合部分の大きさが価値となります。これを金銭で表現できると分かりやすくなります（これは(4)につながります）。
(3)どのようにして提供するか How	魔法のアイテムというわけにはいきませんから、あなたの考えたビジネスアイディアが(2)で述べた価値を提供する方法を説明することが大切です。サービスであれば仕組み、商品であれば機能・構造・効果について、わかりやすく説明することを心がけましょう。実用化されている技術を活用すること、法律等で問題がないかなどチェックしておくことで、より説得力が増すでしょう。
(4)提供することの対価をいただけるのか How much	何をするにも費用がかかります（例えば人件費など）。その費用をどう負担するか考慮しておくことが大切です。顧客が対価を支払ってくれるかどうかは、費用をどう賄うかという点で、ビジネスアイディアの実現性にとって重要です。アイディアの種類によっては対価をいただけば社員のものではない場合もあります。その場合でもかかった費用をだれが負担するのか、そしてその負担する人にとってのメリットは何か説明することが大切です。

12

ワーク①

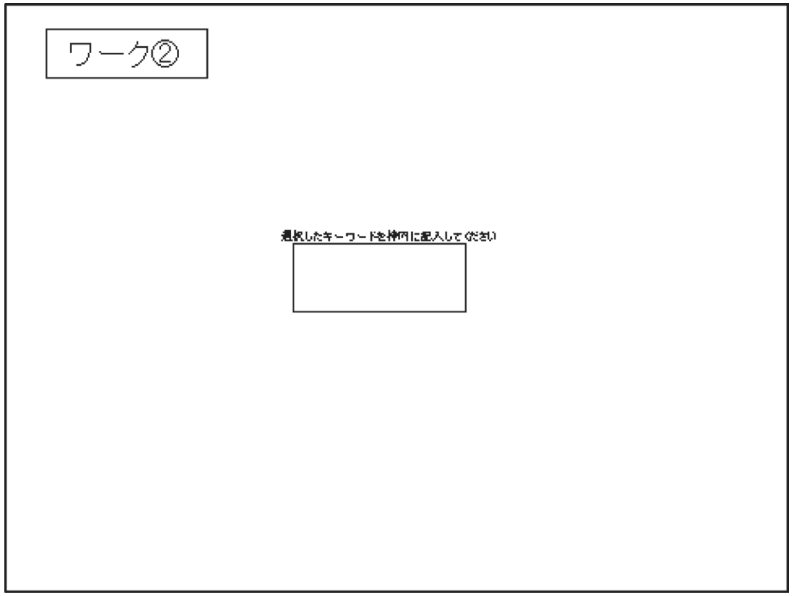
ワーク①　キーワード（単語・単文）を1つ記入してください

ワーク①の指示内容
・卓上にあるカード（上に掲載）に「貧困・途上国」ときいて連想するキーワード（単語 or 単文）を１つ書いてください。
・書いたカードは裏向けて中央で山積みにしてください。
・時間がきたら、全員でカードを裏返し、同じものは１枚だけ残すようにして、どんなキーワードが出てきたか確認してください。

注：カードの大きさはＡ４に４枚並べるぐらいでよいと思います。グループワークをする際にあまり小さいと読み取りにくくなるので、大きめくらいの用紙に大きくはっきり書くと後の作業がはかどると思います。

ワーク①の目的：最終的な目標である「貧困状態にある人々を助けるビジネスアイディア」を考えるために、「貧困状態にある人」とはどういう人かを考えていくワークです。これを行うことで、メンバー各人の頭の中にあるイメージを共有し、かつ自分が持っていなかった着眼点を獲得することを目指します。ワーク②につなげるために、たくさん書いてもらいます。

ワーク②



ワーク②の指示内容
・ワーク①で出たキーワードを１つ選び中央の枠内に書きます。それを掘り下げて説明する追加的なキーワードを考えてください。追加キーワードは付箋に書いて、ワーク①のキーワードの周囲に貼ってください。
　どう困っているか・不満か・不十分か・不足か
　原因は何か（連想でキーワードをつないでいき、どんどん掘り下げてみる）

注：シートの大きさはＡ４ないしＢ４くらいが使いやすいと思います。付箋を用意し、適宜並べ替えや組合せ変更をおこない整理します。

ワーク②の目的：「貧困状態にある人」が直面する問題・課題を掘り下げていくワークです。これを行うことで、複数の原因が関係しているケースなど、問題点をより具体的につかむことを目指します。

ワーク③

■　ターゲット：どういう困難にある人ですか

■　原因：なにが原因となっているのでしょうか

■　対策：どのようにすれば原因を取り除き、困難を改善することができますか

ワーク③の指示内容
・ＨＯＷを考える
・ワーク②で取り組んだ結果をもとに、原因を取り除く方法を考えてシートに記入
・「実現可能性」に配慮しましょう

ワーク③の目的：最終的な目標である「貧困状態にある人々を助けるビジネスアイディア」へつなげていく準備です。ここまでのワークで取り組んできたことをまとめて、貧困状態が持続する原因を突き止めることで、その原因をどう取り除く・あるいは改善することができるかを考えることにより、アイディアの考案につなげます。